

標語の部

SNS
文字は消せても 消えぬ傷
一般 霍田 光一郎
No. 71 THE SHUNO

周り見て
気づこう相手のSOS
泗水中学校 三年 中村 愛侑
No. 72 THE SHUNO

よくすれば
きめつけへんけん
隈府小学校 四年 益崎 結衣
No. 73 THE SHUNO

友だちに
いっぱいこえかけ
菊池小学校 二年 牧 琉翔
No. 74 THE SHUNO

4コマまんがの部



「自分」 鹿本農業高校 春口 咲耶



「見えないところ」 菊池南中学校 1年 藤本 実桜



前田 良さん

今回のフェスティバルは、オープニングとして菊池幼稚園児による元気な合唱で始まりました。その後の人権啓発講演会では、前田 良さんに「パパは女子高生だった～自分らしく生きること～」と題して、ご自身の半生とともに性的少数者の人権について、お話いただきました。

参加者からの感想として、「困難を乗り越えて前に進み、自分らしく生きる姿が素晴らしいと思った」「私も家族のおかげで自分らしく生きていけると改めて感じた。感謝を伝えたい」など、「自分らしく生きる」とはどういった生き方なのかについて考えさせられる講演でした。また、ステージ発表では学校・団体から4つの実践発表や演舞が披露され、菊池市民全体で「人権を大切にす差別のない明るいまちづくり」について様々な視点から考える機会となりました。



菊池幼稚園児によるオープニング合唱



戸崎小学校児童と人権擁護委員による「人権の花運動」実践発表



女性団体代表者会による実践発表



七城中学校生徒による学習発表

第19回

差別のない明るいまちづくりのための 菊池市人権フェスティバル

昨年12月14日（土）に、菊池市泗水ホールにて第19回菊池市人権フェスティバルを開催しました。今回は急な会場変更により市民の皆様にはご迷惑をおかけしましたが、市内外から約350人の方々にご来場いただきました。

会場では市内小中学生を中心に多くの応募があった人権作品の中から、特選14点、入選56点、合計70点を選出・展示しました。人権作品についてはフェスティバル開催後中央公民館、泗水公民館、七城公民館にて巡回展示を行いました。2月25日まで旭志公民館で展示しています。ぜひご覧ください。

No.54

2025（令和7）年 2月1日発行

差別のない明るいまちづくりのための
第19回 菊池市人権フェスティバル



講師・前田 良さん



人権作品展示のようす



児童による神楽演舞

紙面紹介

第19回 菊池市人権フェスティバル

- 1ページ ポスターの部・詩の部
- 2ページ 作文の部①
- 3ページ 作文の部②
- 4ページ 標語の部・4コマまんがの部
- 5ページ 大会報告

編集・発行 菊池市 菊池市教育委員会 菊池市人権・同和教育推進協議会

リーフレットに関するお問合せは

菊池市役所総務部人権啓発・男女共同参画推進課まで TEL 0968-25-7209（直通）

ぼくは、ヒーロー

隈府小学校 五年 古田 裕樹

ぼくは、三年生のときに菊池に引っこして来た。「友達はできるかな。」と不安な気持ちがあった。初めて登校した日、いろんな人が「どこから来たの?」「前の学校、何クラスだった?」と、声をかけてくれた。だから、不安な気持ちが一瞬で消えた。隈府小にきてよかったと思った。

しかし、四年生になり学校で悲しいことやいやな気持ちになることが出てきた。友達に対しておかしな言い方をしている人がいた。ぼくは、注意したが、「うるさい」などと言いつ返された。それから、周りの人のぼくに対しての態度が冷たくなった気がした。でも、そんな時、周りの友達は何もしてくれなかった。ぼくは、悲しくて腹がたつた。ぼくは、友達に対して、その人がいやがるような大きな声で言い返すようになった。いけないことだと分かっていたが、ぼく一人ではこれが精いっぱい行動だった。ぼくは、自分から友達との距離をとるようになった。

五年生になり「ぼくもにげるのはやめます」という学習をした。ぼくは、「今の自分からにげるのはやめよう。」と心に決めた。今のクラスには、「一緒に遊ぼう。」とさそってくれる友達が多かった。だから、今なら本当の気持ちを伝えられると思った。ぼくは、友達の前で本当の気持ちを伝えた。転校してきてよかったと思ったこと。でも、今はいやな思いをしていること。一人でいることが多いけど、本当はみんなと一緒に遊びたいこと。今までの思いを全部伝えた。クラスの友達は真剣に聞いてくれた。そして、ぼくに返しをくれた。みんな、ぼくの思いをしっかりと受け止めてくれた。そして、ぼくが一番うれしかった友達からの返しがあった。

「ぼくは、四年生の時に友達からいやなことを言われた。でも、その時に近くで聞いていた裕樹くんが『そんなこと言ったらだめだよ。』と注意してぼくを守ってくれた。ぼくは、とてもうれしかった。ぼくは、それからいろんな友達と仲良くなった。でも、ぼくのように次は裕樹くんが友達からいやなことを言われるようになって



た。ぼくは、その場面を見ても注意できなかった。今日の裕樹くんの発表を聞いて、ぼくも逃げずに本当の気持ちを伝えなきゃと思った。裕樹くん。あの時はぼくを守ってくれてありがとう。そして、裕樹くんを助けられなくてごめんなさい。これからは、裕樹くんのように人の気持ちを考えて行動します。ぼくが裕樹くんを助けます。裕樹くんは、ぼくのヒーローです。これからも、ずっとよろしくね」

人権学習を感じたこと

菊池農業高校 中村 咲穂

私は中学三年生の頃から学習会に参加しています。そこで人権について深く学ぶ機会があります。人権とは人が生まれながらにもつ権利・人として幸せに生きていくための権利のことです。人権について学んでいる時ふと疑問に思ったことがあります。それはいじめはどこからがはじめなのかについてです。インターネットでは一方的・心理的な攻撃を断続的に加え、相手が深刻な苦痛を感じているものとしてあります。今一番多いいじめは言葉によるいじめです。

高校一年生の終わりに私は一人の友達と仲が悪くなりました。その友達から「証拠がないならいじめるとよ」など言われました。別の男子からは「自分の立場を考えろよ」とも言われました。周りの人もその話を聞いていました。しかし誰も何も言わず、むしろ見て見ぬふりをしていました。その悪口もすぐになくなりました。すぐになくなるといっても私にとってはそのすぐがとっても長く感じました。

話しかけることの大切さ

菊池南中学校 一年 直野 香穂

今日もあの子の周りには誰もいない。障がいがあるあの子はいつも少人数だ。誰も話しかけようとはしない。私が小さい頃、その子の紹介の時に、「自分では話しかけにくいので遊ぶときは、できるだけ誘ってください。」

と言っていた。だから誘ったことはあったが、「いや、いい。」と断られてしまった。その時は都合が悪かったのかもしれない。もしかしたら他に遊びに誘われてたのかもしれない。でもその時の私は、そんなことも考えずに、断られて少しだけ怒ってしまった。声には出してないけど、友達と小さな声で、「なんで、話しかけたのに...。」

と悪口を言ってしまった。もし、もう一回話しかけてたら遊べたかもしれないのに、私はそれ以来話しかけられていない。大きくなって、あの時は自分が悪かった、と分かっても、自分もよく話す人以外で、自分から話しかけるのが苦手になっていた。でも、あの子は、一人よく話す子がいた。同じ支援学級に入っている子だ。その子はよく私とも話したし、積極的に話しかけてくれる明るい子だ。その子は、「一緒に遊ぼう」と言っていて断られても、「じゃあ次遊ぼう」と言っている。私は少しだけそれがうらやましかった。正直外に出て悪いこと、今すぐやめると思っている、障がい者を見て、嫌に思う自分がある。その自分が、嫌でありしゃべったことがない人にあまりしゃべりかけなかった。

中学生になって私は少し考え方が変わるようになった。昔の自分は、一回言われたことで、遊ばないと決めてつけてたけど、今は自分から積極的に話しかけて、あの子のよう



に話しかけてみた。それで、少しおとなしい子とも仲良くなった。自分は、これが一番成長したところだと思う。私はこれからの社会が思いやりがあり、自分から話しかけて、人によりそえるようにしていきたい。

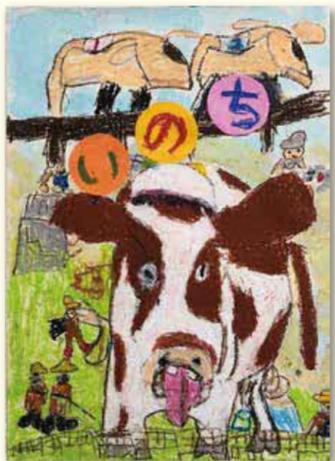
作文の部

第19回 菊池市人権フェスティバル特選作品紹介

ポスターの部



「てをつないで なかによし」 隈府小学校 1年 はやま みなと



「だいじなのち」 隈府小学校 1年 あらき けんしん



「届けよう言葉」 菊池南中学校 3年 前田 花音



「明るい世界へ」 七城小学校 5年 角田 星梨

詩の部

入れかわり 泗水東小学校 五年 草野 柑太
いじめるのは 楽しいこと?
かなしいこと?
やる人からは楽しいの?
やられる人は悲しいよ
やる人が
やられる人へ変わった時
本当の辛さを
分かるもの